

Kyorin Eye Center Newsletter

vol. 43
Spring
2014

〒181-8611 東京都三鷹市新川6-20-2 杏林アイセンター Tel: 0422-47-5511 (ext. 2606) Fax: 0422-46-9309

- | | |
|--|-----------------------|
| ◆杏林アイセンター眼窩外来の紹介(今野公士) <1> | ◆フォトアルバム <4> |
| ◆眼窩外来における疾患、手術の紹介
(今野公士、柳沼重晴) <2~3> | ◆イベント情報 <4> |
| ◆新専攻医の紹介 <3> | ◆編集部からのコメント <4> |

<執筆者: 括弧に明記 production: 岡田アナベルあやめ、堀江大介、仲島みずき>

杏林アイセンター眼窩外来の紹介(今野公士)



柳沼重晴

今野公士

当アイセンターが発足して今年で15周年を迎えますが、眼窩外来も同様に15周年を迎えました。発起人は、現在千葉で開業されている忍足浩先生です。忍足先生は、まだ当時では珍しかった悪性リンパ腫(MALT)などの眼窩内腫瘍や、眼窩底骨折に対する再建術、そして眼瞼手術などをお一人で積極的に加療されていました。当時、私は脳神経外科の研修医でしたが、忍足先生に出会い、眼科診療の面白さに魅かれ転科しました。眼科医4年目に、眼窩外来に忍足先生とともに担当させていただけることになりました。しかし、忍足先生が独立されたため、その後は私一人で担う運びとなりました。まだまだ未熟な私は、慶応義塾大学の野田実香先生(現在北海道大講師)のもとで、1年間厳しい研鑽をさせていただきました。

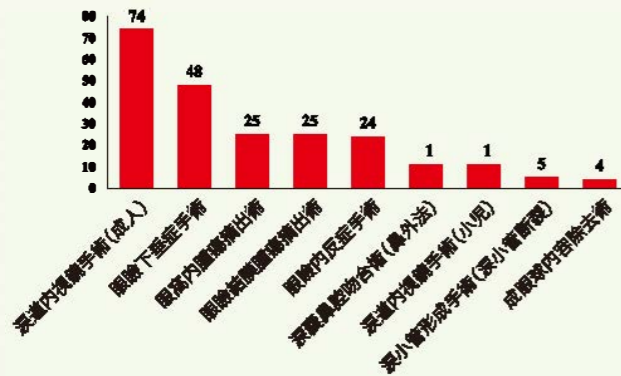
た。しかし、それでも診療に対する不安な日々はつきませんでした。なぜなら眼窩を専門とする眼科医は非常に少なく、難症例の診断・加療に対しても、すぐに相談できないため判断に苦慮することがあったからです。これは私だけでなく、全国の眼窩専門医が同様の気持ちでした。そこで、こうした疾患を心置きなく相談できるようにと、全国の眼窩専門医による会員制の眼窩疾患専門メーリングリスト(CTO)が立ち上がりました。このCTOは年々参加者が増え、現在では学会でも御高名な教授先生も参加されているので、よりの確なアドバイスをいただくことができます。こうして信頼できる加療方針を、患者さんに提供することができるようになりました。そして平成23年、柳沼重晴医師が参入しました。柳沼先生は非常にタフで頼もしく、とても精力的に仕事をこなしてくれるので、今後の当外来中心人物として期待できる逸材です。こうして二人体制に成長した我々は、涙道内視鏡加療を中心とした鼻涙管閉塞疾患を、成人だけでなく先天鼻涙管閉塞・小児涙道疾患に対しても積極的に使用して加療するようになりました。また、私の外勤先でも涙道内視鏡を取り入れていただき、年間200件の涙道疾患を加療するまでに発展しました。

次ページで当眼窩外来で扱う疾患をご紹介します。

眼窩外来における疾患、手術の紹介 (今野公士・柳沼重晴)

当科で主に診察している眼窩疾患は、鼻涙管狭窄症を主とする涙道通過障害、涙嚢炎、眼瞼下垂症、眼瞼内反症、眼瞼腫瘍、眼瞼痙攣、眼窩内腫瘍、甲状腺眼症、眼窩下壁骨折を主とする外傷性疾患、脳神経外科領域疾患、そして近年トピックスのIgG4-RDなどです。これらの疾患のうち当科で対応可能と判断し、2011年4月～2013年11月の期間に当院手術室で施行した手術の内訳を表1に示します。ただし眼瞼結膜腫瘍は処置室で対応しておりますので、上記には含まれておりませんが、多数例施行しております。以下に当科で診察している疾患を、いくつかご紹介させていただきます。

表1 手術件数の内訳 (H.23.4～H.25.11)



眼外腫瘍

径5mm以下の眼瞼結膜腫瘍は外来処置室で切除します。無縫合のopen treatmentで対応できる疾患を適応とし、検体は病理検査にて組織形態を確認します。母斑症や脂漏性角化症、乳頭腫といった良性腫瘍が多く、ときに悪性リンパ腫(MALT(マルト)リンパ腫、基底細胞癌、脂腺癌などの悪性腫瘍も認めることがあり、術前の予想診断との鑑別が重要になります。径5mmを超える腫瘍は、移植を用いた眼瞼再建を必要としますので形成外科に依頼します。眼窩内腫瘍は、眼窩類皮嚢胞、涙腺多形腺腫、血管腫などは全摘し、悪性リンパ腫(MALT、diffuse large B cell lymphomaなど)や涙嚢腫瘍などは亜全摘による生検を行います。MALTに関しては遺伝子再構成による補助診断を必ず併用し、当院血液内科にて化学療法(R-CHOP)、放射線療法を行います。涙嚢腫瘍は悪性が多く、今年度は扁平上皮癌に対し、千葉県放射線医学研究所にて重粒子線療法を施行し完治した2症例を経験しました。また、悪性黒色腫、リンパ腫なども経験しております。さらに、涙腺腺様嚢胞癌のような眼窩拡大切除術が必要な症例は、当院形成外科と耳鼻咽喉科に依頼します。

眼瞼疾患

眼瞼下垂に対しては、levator aponeurosisを切離修復する挙筋前転術を、内反症はlower lid retractorを修復するJones法変法を施行しています。

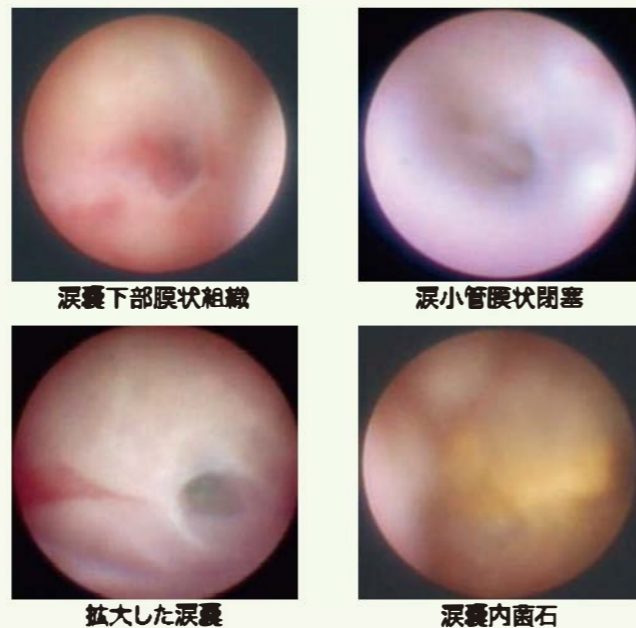
IgG4-RD

近年のトピックスにIgG4関連疾患(IgG4-RD)があります。IgG4とは免疫グロブリンの一種で、日本人医師が2000年に自己免疫性膵炎から発見しました。顎下腺、唾液腺、肺、腎臓などの腺分泌組織が硬化していく疾患、いわゆる硬化性病変です。眼科領域のIgG4-RDは両側対称性、ときに片側の涙腺腫脹を認めます。過去の急性涙線炎や、Mikulicz病が原疾患です。免疫染色された組織診と採血結果にて確定診断し、ステロイド内服治療を開始します。また、内科とも連携し治療にあたっております。なかなか改善しない両側の眼瞼腫脹を診察したら、IgG4-RDを疑ってもいいかもしれません。他にも眼窩下神経の腫脹など、今後もまだまだ研究する余地のある新しい眼窩疾患です。

涙道通過障害:鼻涙管狭窄症、慢性涙嚢炎

我々が、日帰り手術で最も多く施行している分野であり、主に涙道内視鏡下シリコンチューブ挿入術(direct endoscopic probing:DEP)を施行しています。DEPは流涙、眼脂を主訴とした鼻涙管狭窄症に加え、成績不良とされている慢性涙嚢炎にも積極的に適応し、現在まで施行したDEPの初回治癒率は、鼻涙管狭窄は81%、慢性涙嚢炎は75%と良好です。図1に示すような所見が涙道内で確認できます。チューブは術後およそ2か月で抜去しております。しかし、それでも改

図1 涙道内視鏡による各涙道内所見



善しない症例には涙嚢鼻腔吻合術(鼻外法)を施行し治療します。また、先天鼻涙管閉塞(CNLDO)を主とする小児涙道疾患に対しても、近年我々は涙道内視鏡を用いて加療しております。生後18ヶ月以上の患児を対象に、全麻下でDEPを施行、治療成績は現在までに11例と少数ですが全例経過良好です。本来はこの倍以上の手術を予定していましたが、手術予定を入れた後の数ヶ月以内にマッサージで改善してしまいました。この現象はとても興味ある事実で、今後の検討課題です。

甲状腺眼症

眼球突出、複視、そして眼瞼後退所見に対して、採血、画像検査および内科併診にて対応しております。重症発症例にはステロイドパルス療法、放射線療法を施行します。

眼瞼痙攣、片側顔面痙攣

ボトックス加療をしております。特に片側顔面痙攣は、脳外科的加療の対象にもなるので全例MRIを施行します。

眼球ろう

眼球内容除去術、義眼台形成を施行しておりますが、近年その充填物の素材不足が問題視されています。当

科では整形外科で使用する骨製剤を使用しています。良好な状態を形成保持しておりますが、素材の安全性、耐久性などが検討課題です。

内頸動脈海綿静脈洞瘻: CCF

片側の眼球突出、結膜充血、左右差のある眼圧などを認める症例はCCFを疑い、眼窩部CTにおける上眼静脈の拡張を確認した後、当院脳神経外科でのコイル治療を依頼します。

展望

今後の展望は、内視鏡加療による小児を中心とした涙道疾患の研究などに取り組んでいきたいと考えております。CNLDOにおける涙道内閉塞所見やマッサージによる治療効果などの経緯に関心をもっております。また、症例数を増やし、対象研究における信頼性を高め、各学会で発表することが肝要と考えております。平成26年3月まで火曜日午後の診察ですが、4月からは月曜日午前に変更となります。今後も地域の先生方との連携を深めながら、益々精進していきたいと考えておりますので、症例のご紹介含め何卒よろしくお願い致します。

新専攻医の紹介



桑名亮輔 先生

順天堂大学眼科の桑名亮輔です。平成15年昭和大学卒業し、7年間脳神経外科として勤務後に、眼科に転科しました。現在眼科4年目で、網膜硝子体の勉強を中心に働いております。

昨年、井上先生の手術見学をさせていただき杏林大学にお世話になっております。今後とも御指導の程よろしくお願い致します。



小林宏明 先生

順天堂大学より参りました、小林宏明と申します。昨年10月より、岡田教授、山本先生のご指導のもと、黄斑外来にて診療を行っております。本年4月からは順天堂大でのAMD外来の責任者となることになり、杏林大学で得た知識を存分に母校での診療にも生かしたいと考えております。何卒よろしくお願い致します。



眞鍋 歩 先生

昨年度末より、眼炎症外来のフェローとしてお世話になっております、眞鍋歩と申します。2009年に日本大学を卒業し、医局は駿河台日大病院です。現在、杏林大学から引き続きだ公立阿伎留医療センターに勤務しており、そのご縁もあり、大学院の研究日を使って勉強をさせていただいております。医学部時代はラグビー部でしたが、もともとアルペンスキーをやっていて、今でもスキーをはじめとするアウトドアスポーツが趣味です。杏林大学の先生方は非常に優しく、フレンドリーでとても楽しく勉強させていただいております。少しの間ですが宜しくお願い致します!

フォトアルバム

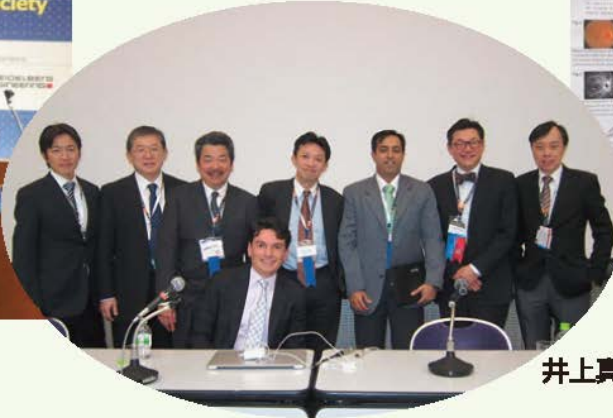


慶野博先生

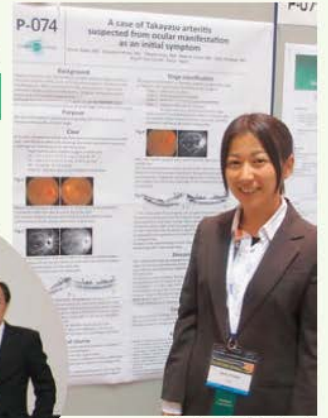


厚東隆志先生

APVRS・網膜硝子体学会 (名古屋)にて



井上真先生



松本杏奈先生

松本奈央子先生
(Distinguished Contribution賞受賞)



富田茜先生
(Best Resident賞受賞)



藤原隆明先生

忘年会



新年会(大江戸温泉)にて

イベント情報

<第5回東京多摩眼科連携セミナー>

2014年4月19日(土) 14:30 ~ 17:00 杏林大学 大学院講堂
会費1,000円(日本眼科学会認定専門医2単位)

「眼合併症を伴う重症薬疹とアトピー性皮膚炎」 塩原 哲夫 先生 (杏林大学医学部附属病院皮膚科 教授)

<6th Eye Center Summit>

2014年5月31日(土) 17:30 ~ 20:00 目黒雅叙園 (開催場所にご注意ください)
会費2,000円(日本眼科学会認定専門医2単位)

「網膜・硝子体分野のトピックス」 近藤 峰生 先生 (三重大学大学院医学系研究科眼科学 教授)
「緑内障診療の進め方」 白土 城照 先生 (四谷しらと眼科 院長)

<第56回東京多摩地区眼科集談会>

2014年10月11日(土) 14:30 ~ 17:00 杏林大学 大学院講堂
会費1,000円(日本眼科学会認定専門医2単位)

「緑内障関係(仮題)」 鈴木 康之 先生 (東海大学医学部附属八王子病院眼科 科長)

編集部からのコメント

元気の良い2人が眼窩外来を担当しています。涙道内視鏡手術も軌道に乗ってきました。眼窩・眼瞼手術で摘出した組織の眼科病理検討会も行っています。対象患者さんのご紹介などよろしくお願いいたします。アイセンターの専門外来に他施設から参加する先生も増えてきました。網膜硝子体、眼炎症、角膜などのfellowを募集していますので、ご希望の方はご連絡ください。(AH)